

平成23年度スジアオノリ養殖概況

棚田教生・中西達也

図1に平成23, 22年度の月別徳島県漁連共販数量の推移を、図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。

吉野川では10月から天然採苗が行われ、順次養殖が開始された。漁期前半は漁場の高水温・低塩分環境が続き、藻体の生長が悪かったが、水温の低下および塩分の回復とともに年末以降は急激に生長し、1月に40トンを超える大豊漁となった。このため共販入札は2月初旬まで開催された。

平成23年度漁期の共販実績は数量101トン、金額12.5億

円、平均単価12,374円でいずれも過去最高であった。漁期終了時まで品質が良好であったことに加え、漁期前半の不作による価格の高騰の影響が継続したこともあり、豊漁にもかかわらず平均単価は高値のまま推移した。このため、生産金額も初めて10億円を上回った。

水産研究所は、漁業者が実施する人工採苗を支援するため、人工採苗用の母藻（吉野川産広域温度対応株 Y1124）種網を生産し、大津、川内、応神町、徳島市第一、渭東及び徳島市辰巳の各漁協へ配布した。

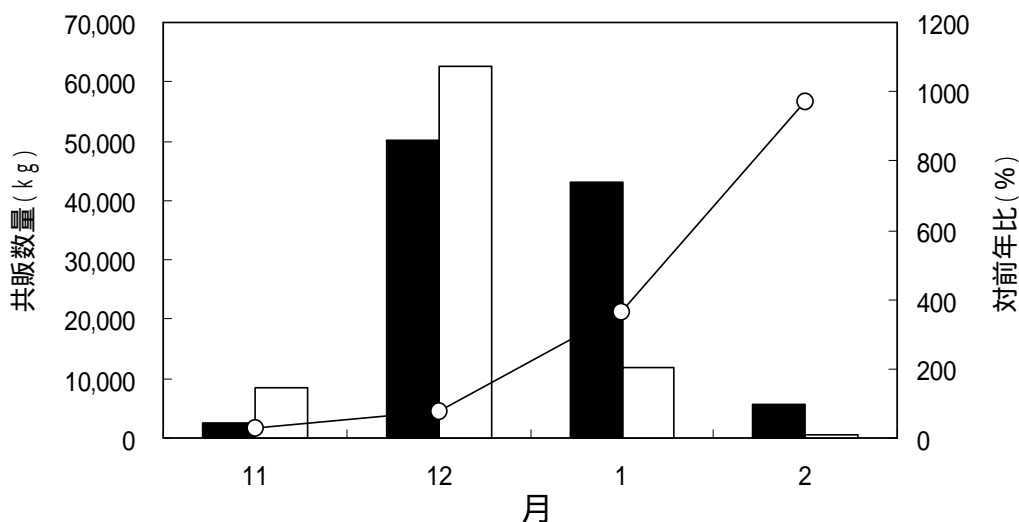


図1. 月別共販数量の推移。 ，平成23年度； ，平成22年度； ，対前年比

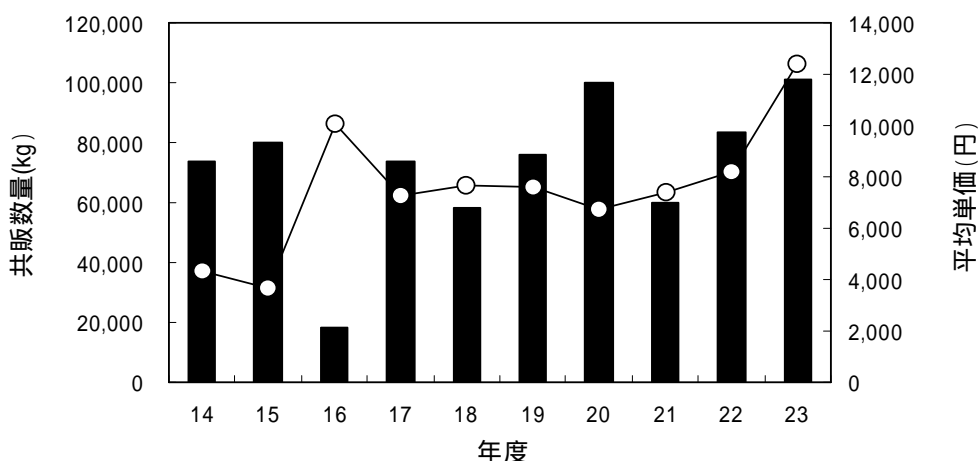


図2. 年度別共販数量と平均単価の推移。 ，共販数量； ，共販単価

平成23年度スジアオノリ養殖概況

棚田教生・中西達也

図1に平成23, 22年度の月別徳島県漁連共販数量の推移を、図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。

吉野川では10月から天然採苗が行われ、順次養殖が開始された。漁期前半は漁場の高水温・低塩分環境が続き、藻体の生長が悪かったが、水温の低下および塩分の回復とともに年末以降は急激に生長し、1月に40トンを超える大豊漁となった。このため共販入札は2月初旬まで開催された。

平成23年度漁期の共販実績は数量101トン、金額12.5億

円、平均単価12,374円でいずれも過去最高であった。漁期終了時まで品質が良好であったことに加え、漁期前半の不作による価格の高騰の影響が継続したこともあり、豊漁にもかかわらず平均単価は高値のまま推移した。このため、生産金額も初めて10億円を上回った。

水産研究所は、漁業者が実施する人工採苗を支援するため、人工採苗用の母藻（吉野川産広域温度対応株 Y1124）種網を生産し、大津、川内、応神町、徳島市第一、渭東及び徳島市辰巳の各漁協へ配布した。

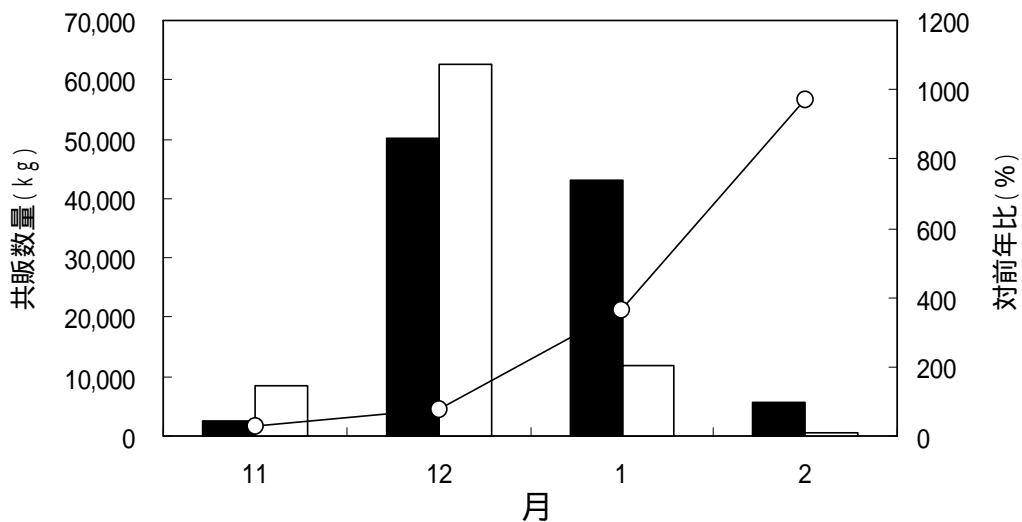


図1. 月別共販数量の推移。 ，平成23年度； ，平成22年度； ，対前年比

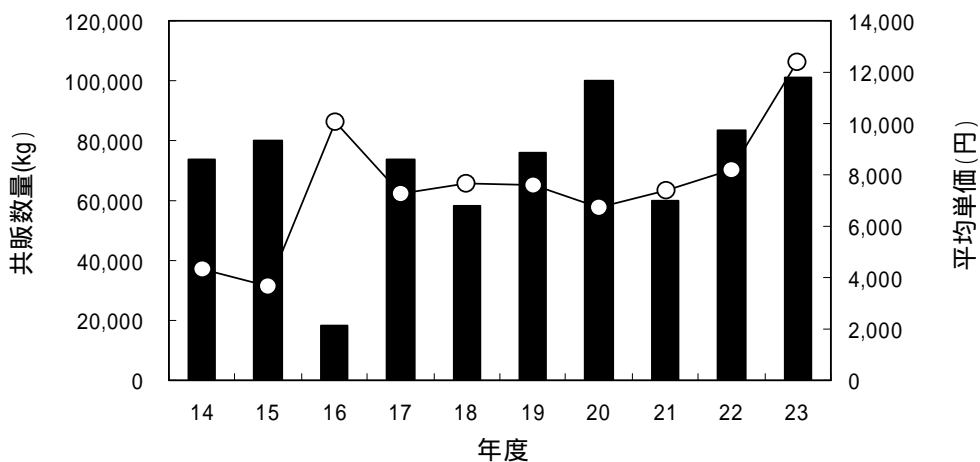


図2. 年度別共販数量と平均単価の推移。 ，共販数量； ，共販単価